

# 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム

# 1

医療はプロフェッションの1つといわれる。プロフェッションは、しばしば専門職と訳されるが、本来の意味でのプロフェッションとは、①人々にとって重要な利益（医療の場合は人々の健康と生命）にかかわり、②人々のそうした利益を守るために高度に専門的な知識と技能が必要とされ、③したがって、社会はそれらの知識や技能の教育・修得・使用などについて当該職業集団の自己規律にゆだねざるを得ず、そのために、④当該職業集団がそれらの知識や技能を決して乱用せず、それらを必要とする人々のためにのみ用いることをみずから社会に向かって「公言する」、そういう高度専門職を意味する。

プロフェッショナルとは、そのような職業集団の一員を意味し、プロフェッショナルに必要な知識、技能および態度を総称してプロフェッショナリズムという。

本章では、現代社会において歯科医師に求められるプロフェッショナリズムと、それに基づいた診療のあり方等について簡潔に述べる。

## Side memo

プロフェッション  
profession

プロフェッショナル  
professional

プロフェッショナリズム  
professionalism

### 公言する

「公言する」=プロフェス(profess)であり、公言されたものが「誓い」や「宣言」である。

### プロフェッションおよびプロフェッショナルとしての歯科医療について

1章 参考文献1)の「専門職と専門職倫理」および「歯科医療」の項をそれぞれ参照。



## 医の倫理, 生命倫理

### 1. 患者の人権と医療

#### (1) 伝統的な医の倫理から現代の医の倫理へ

「ヒポクラテスの誓い」に代表される伝統的な医の倫理は、医師集団がみずから課した医師としての職業倫理であり、その中心をなすのは患者への献身、人命の尊重、患者の秘密の保持である。この古代ギリシャ以来の伝統的な医の倫理は、1948年に世界医師会総会で採択されたジュネーブ宣言においても受け継がれている。ところが、1960年代以降、伝統的な医の倫理が見直しの対象となった。その背景には複雑に絡みあったさまざまな要因があるが、主として次

## Side memo

### ヒポクラテスの誓い

1章 (p.5), 巻末 資料1 (p.209) 参照。

### WMA ジュネーブ宣言

1章 (p.5), 巻末 資料2 (p.209) 参照。

の2つの理由があげられる。

- ① 患者への献身について、伝統的な医の倫理では、医師は医師自身の判断に従って診療行為をするものとされてきた。ところが、第二次世界大戦後の世界的な人権意識の高揚、価値観の多様化、疾病構造の変化（医療における主要疾患の急性疾患から慢性疾患への変化）などを背景に、患者の自己決定権をはじめとする患者の権利が主張されるようになって、患者に対する医師の伝統的な態度はパターナリズムであるとして批判されるようになった。
- ② 医療技術の発達によって、たとえば「脳死は人の死か」、「代理懐胎は認められるべきか」といった、それまで考えられもしなかった新たな問題が医療の場に数多くもたらされるようになった。しかも、そうした問題は人の生死や家族のあり方にかかわる重大な社会的問題でもあり、社会における医療のあり方も含めて社会全体で検討されるべきではないかと考えられるようになった。

#### (2) 医療倫理学

こうして、20世紀なかば以降、伝統的な医の倫理に代わる、新しい医の倫理が模索されるようになった。医師・歯科医師だけでなく、あらゆる医療従事者の職業倫理と、歯科や看護を含む広義の医療上の倫理的問題について、社会における一般的な法や倫理をふまえたうえで検討する学問分野は、わが国では医療倫理学と呼ばれている。

#### (3) バイオエシックス (生命倫理学)

バイオエシックスとは、ギリシャ語で「生」を意味する bios と、倫理学を意味する ethics とを組み合わせて、1970年ころにアメリカでつくられた言葉で、生命倫理学と訳されている。

バイオエシックスという言葉が普及させるきっかけとなった『バイオエシックス百科事典』の初版(1978年)において、バイオエシックスとは「生命諸科学とヘルスケアにおける人間の行動を道徳的価値ならびに原則から検討する体系的な研究」と定義され、従来の医の倫理とは異なり、次の事項を主たる対象領域としている。

- ① 医師のみならずあらゆる医療従事者に生じる倫理的問題
- ② 治療に直接関係を持たない場合をも含めた生物学・行動科学研究
- ③ 公衆衛生、人口問題などの広範囲に及ぶ社会的問題
- ④ 動物実験、環境問題等における人間以外の生命にかかわる問題

#### (4) 4原則

医療倫理学や生命倫理学の4原則と呼ばれるものがある。これは、アメリカ

### 自己決定権

a right to self-determination  
1章 (p.13) 参照。

### 患者の権利

patients' rights  
1章 (p.6), 参考文献2) 参照。

### パターナリズム

paternalism  
本人のためになるという理由で、相手の意向を尊重せず、管理したり支配したりする態度。「父権主義」、「温情主義」と訳される。

### 医の倫理, 医療倫理学

医の倫理も医療倫理学も、英語ではともに medical ethics である。また、英語の medical ethics は一般に狭く理解されているために、dental ethics (歯科医療倫理学) や nursing ethics (看護倫理学) とは区別して用いられている。また、bio-medical ethics という語も使われている。biomedicine (生物医学, 生命医学) とは現代生物学に基づく医学を意味し、いわゆる alternative medicine (代替医療) と区別するためにこの語が用いられることが多い。広い意味での医療倫理学は、英語では health care ethics と呼ばれる。なお、倫理は倫理学の略語として用いられることがあるので、医療倫理学は医療倫理と呼ばれることもある。これについては、生命倫理学や臨床倫理学についても同様である。

### バイオエシックス

bioethics  
バイオエシックスの定義は、『バイオエシックス百科事典 (Encyclopedia of Bioethics)』の第2版以降では、「学際的環境においてさまざまな倫理的方法を用いながら行う、生命諸科学とヘルスケアの(道徳的な展望、意思決定、行為、政策を含む)道徳的次元に関する体系的な研究」と敷衍されている。  
1章 参考文献1) 序文参照。